

第7回教員推薦図書（2024年7月）

危機管理学部 古谷 洋一 先生

以前、Iさんから文章の書き方を相談された際に、とりあえず即効的なものとして答えた内容です。

1. 石黒圭『文章は接続詞で決まる』（2008 光文社新書）

社会人でも接続詞をうまく使えない人が多い中、接続詞は論理構造を示すものなので、これを間違えると論旨破綻と言われ、逆に適切に使うことができれば、評価が非常に高まります。私が読んだ文法関連書の中では最も印象に残っている本です。

2. 岩淵悦太郎『悪文 伝わる文章の作法』（2016 角川ソフィア文庫）

自分の文章のどこがおかしいのかに気づく手掛かりがいろいろ書いてあります。

実用文法書ならこれでしょう。私が学生に指摘している事項も同書の目次に出ている事項が大半です。

作家が書いた「文章読本／文章作法」も何冊か読みましたが、実用性の観点では上記2冊が勝るように思います。その上で、授業のレポートを含め、かつての自分の文章を読み返してみると、腑に落ちる部分があるのではないのでしょうか。文章力は一気に変わるものではありませんが、日々自覚するのと4年間ぼーっとして過ごすのとでは天地の差が出ると思いますよ。